

『沖縄の精神医療』 (シリーズ 精神医学の知と技)

小椋 力 著

中山書店 2015 年

沖縄の精神医療は太平洋戦争前にはほとんど「無」の状態だったが、現在では医療施設や社会復帰施設が整備され、人材の育成や確保についても量・質ともに全国平均を上回る。本書は沖縄県の精神医療の歴史と現状を解説したもの。沖縄は、太平洋戦争前から他県と異なる歴史・文化・風土をもち、戦後も日本で唯一の地上戦となった沖縄戦による心的トラウマや、敗戦後の米軍統治による米国医療の影響、また精神医療の決定的不足を補う派遣医制度など、沖縄特有の背景をもつ。そうした特有の事情による精神医療面への影響、地域精神医療・予防精神医療の可能性

について詳述している。

著者は大阪生まれだが、小学校2年の時に父親が沖縄で戦死し、母と共に郷里鳥取県に帰郷し主として県内で教育を受け、米国留学後、琉球大学に医学部が新設されることとなって赴任、1984～2003年琉球大学医学部精神神経医学教室の初代教授を務めた。見開きの年表、および写真・図・表30点がついている。

●主な目次

- 第1章 沖縄県の概要
- 第2章 沖縄県の医療
- 第3章 沖縄の民俗信仰とシャマニズム
- 第4章 沖縄の精神医療の歴史と現状
- 第5章 沖縄における地域精神医療の歩み
- 第6章 沖縄における予防精神医療の歩み
- 第7章 沖縄の精神医学・医療における国際交流